

## 4 身体の動きの指導

### (1) こんな子どもはいませんか？



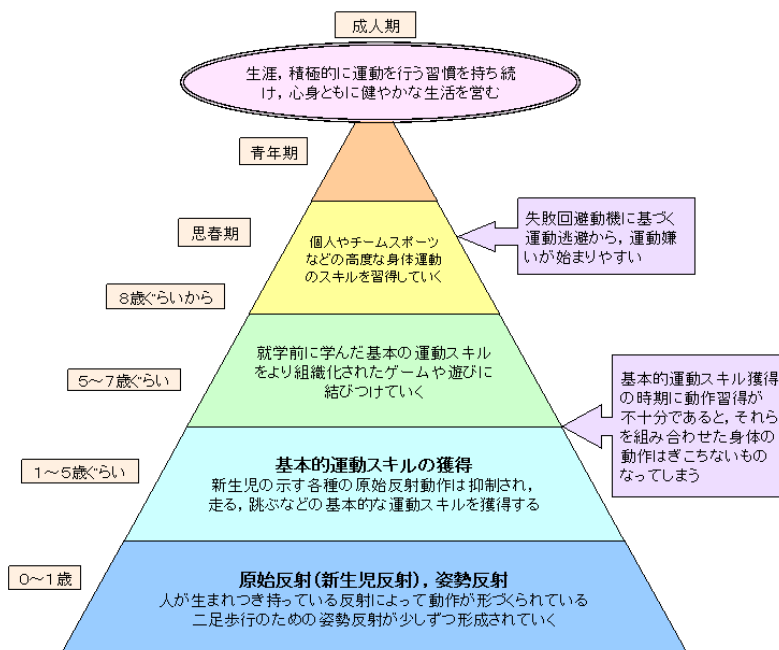
運動は、「できる」「できない」がはっきりしていて、通級指導教室に通う子どもたちの中には苦手意識を持つ子どもが数多くいます。そこで運動ができるようになってほしいと思い、何度も同じ練習を繰り返して行いますが、なかなか結果が出ないことも数多くあります。そこで縄跳び・ボール投げ・マット運動等の練習をする前に、身体のどの部分の動かし方に課題があるのかを知って、子どもたちにあった動きを練習していくことが必要になります。

投げる・蹴る・ジャンプする等の基本的運動スキルの習得が不十分な場合は、さらにその前段階に戻って、それぞれの動きを確認してみましょう。

### (2) 運動発達とは？











赤ちゃんは、生まれてから様々な動きを獲得しながら歩くことができるようになっていきます。ある運動の動きが獲得できていないために、身体を自由にコントロールすることができずに、ぎこちない動き方になっている可能性があります。そこで、赤ちゃんが歩くことのできるようになるまでの10個の動きを獲得できているか、確認していくことが大切になってきます。

どの段階の動きができているかを確認する時、形にこだわってその動きばかりの練習をしてしまいがちです。単調な練習は子どもたちの意欲も低下し、楽しくない活動の一つになってしまいます。ゲーム的な要素を取り入れたりリズムに合わせたりしながら行うなど、子どもたちが「楽しい」「もっとやってみたい」と思えるような活動を考えてやってみましょう。




(参考)  
神戸大学 教授 河辺章子  
「身体運動制御と子どもの遊び」より

赤ちゃんが歩くまでの10の動き

<p>① 肩甲帯</p> <p>腕を曲げた状態で身体を支える。</p>	
<p>② 骨盤帯</p> <p>背中を床に押しさえつけて、手足を上げる。</p>	
<p>③ 寝返り</p> <p>足が動いてから、腕が動く。</p>	
<p>④ 股関節分離</p> <p>床に足をつけて、交互に動かす。</p>	
<p>⑤ アップドック</p> <p>肩と手をついた位置を真っすぐにする。</p>	
<p>⑥ ハイハイ</p> <p>背中が丸まったり、お腹が下がったりしない。</p>	
<p>⑦ 横ハイハイ</p> <p>足を横に動かして進む。</p>	
<p>⑧ 座位</p> <p>足の裏をくっつけるような感じで座る。</p>	
<p>⑨ 膝立ち</p> <p>足は直角に曲げ、背中をまっすぐ伸ばす。</p>	
<p>⑩ 高這い</p> <p>両手足を床につけて、お尻を上げる。</p>	

②骨盤帯  
バランスボールを何秒キープできるか挑戦しよう。



ボールを潰しながら、背中は浮かずに万歳ができるかな。


タオルをひっぱっても抜けないようにしましょう。

④股関節分離  
トカゲになって進んでみよう



お腹を床につけ、股関節から足を動かすことができるかな。

⑥ハイハイ  
バランスボールに足を乗せて前に進んでみよう。



肩と手の位置は床に対して垂直になっているかな。お腹が下がってないかな。

子どもたちは楽しく活動していますが、指導者はその動きのポイントを見て獲得できたかどうかを判断します。  
それぞれの運動をやってみて「できてないな」「何か違うな」と感じた動きがあった際は、その動きのみの練習をするのではなく、その前のできている動きに戻って練習することが大切です。



## 5 視覚サテライト教室の指導

### (1) サテライト教室の対象となる子どもは

「視覚サテライト教室」は、通常の文字、図形等の視覚による認識が、拡大教科書を使用しても難しく、一部特別な指導を必要とする子どもたちを対象にしています。

週1回、2単位時間（児童90分、生徒100分）程度、個別で学習します。

市川市には平成23年度に千葉盲学校のサテライト教室として八幡小学校内に開設され、平成28年度には「見え方」の支援を始めた県立船橋特別支援学校のサテライト教室となりました。

### (2) 視覚障がいとは

視覚障がいとは、視力障がい、視野障がい、色覚障がい、光覚障がい等をいいます。

両眼の矯正視力が0.3まで低下すると、黒板や教科書の文字や図等を見るのに支障をきたすようになり、教育上特別な支援や配慮が必要になります。

○視力障がい…初めて経験する事柄や未知の場面において、慣れるまでに支援が必要です。その場合日常生活における環境判断は聴覚の働きに頼ることが多くなります。小さな部分が十分に見えていなかったり、見落としていたり、全体が分かりにくかったりすることがあります。見たいものに目を近づけるなど、遠近感覚が不十分になる場合があります。

○視野障がい…視野が狭い場合には、横から近づいてくるものに気付かない、段差に気付かない、物を探すのに時間がかかる、球技でボールを追うのが難しいなどの傾向がみられる場合があります。

○光覚障がい…明順応障がい：明るいところではまぶしがったり、目が開けられなくなったりする状態（羞明）です。

暗順応障がい：少しでも暗くなると行動が制限される状態（夜盲）です。

### 通常学級における配慮について

校内環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・廊下等も含めて校内の明るさの確保。</li><li>・避難経路等わかりやすい目印や照明、段差等の明確化。</li><li>・光を調整するためのブラインドやカーテン等。</li><li>・作業のしやすい高さの机や椅子。</li><li>・見えにくさ、使用する視覚補助具・教材について、周囲への理解啓発。</li></ul>
国語科及び各教科	<ul style="list-style-type: none"><li>・書く指導では、大きくはっきりと見える手本を用意し、適したマス目のあるノートなどに大きな文字で形を整えて書き、正確に習得できるようにする。</li><li>・教科書、地図、資料等では、必要に応じて文字や数字を拡大する、線を太く濃くする、簡略化したシンプルな線や形にする、隣の色との明暗差をつけるなどの工夫により読みやすくする。</li></ul>

算数・数学科	操作しやすく目盛等が読みやすいコンパスや定規等の筆記用具を使用する。
理科・技術・家庭科	危険を伴いやすい薬品、用具、機械類を用いての実験や実習では、安全な使用法を習熟させ、安全確保と事故防止の態度や習慣を身に付けさせるようにする。
保健体育科	走る・投げる・跳ぶなどの基本運動に全力で取り組めるよう安全な環境に配慮する。遠近感がわかりにくいのでボール運動等、配慮が必要となる。

### (3) 指導について

#### ① 指導の前に

- ・視覚障がいの状態（眼疾患名・疾患の原因・概要・主な配慮事項）を知っておきましょう。
- ・視力、視野の様子、読速度等の実態を把握しましょう。

#### ② 視覚補助具等

ルーペ



単眼鏡



書見台



拡大読書器

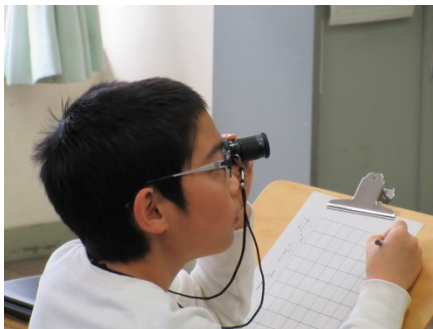


白黒反転定規



#### ③ 指導・支援内容

- ・単眼鏡やルーペなどの視覚補助具の使い方の学習をします。
- ・自分の見え方についての理解を深める学習をします。






### コラム 3



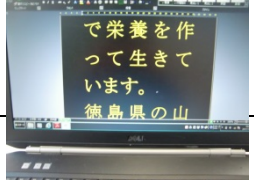
Q：拡大教科書って？

A：「教科用特定図書」の1つです。出版社等の企業や社会福祉法人で制作・発行しているもの、他、ボランティア団体が発行しているものがあります。検定済教科書の色遣いや文字のフォントや大きさ、図表の配置などを、視覚障がいのある子どもたち一人一人のニーズに合わせて作成されています。無償給与事務に関する手続きは、通常の学級で「教科用特定図書」として行います。

【小学生90分（2単位時間）】

時間	指導内容
10分	○学校や家庭での様子を尋ねる。 ○活動の流れを知る。
15分	○単眼鏡 1) 板書読み 単眼鏡を正しく使用して読む。 2) 板書書写 一度に多くの文字を覚えて書き写すことを意識しながら書写する。 正しく書き写すことができたかどうか確認を行う。 
30分	○拡大読書器 1) 文章読み 文字の大きさや画面反転、ストッパーなどを見やすい状態に設定して読む。 2) 文章問題（国語） 文章問題を解きながら、XYテーブルの動かし方や記入の練習を行う。 
15分	○辞書・漢字 1) 辞書 単語の意味調べを行う。適宜ルーペや拡大読書器を使うことを確認する。 2) 漢字 漢字の足し算プリント・漢字カードを使用する。漢字を部品に分けて漢字のつくりを学習する。
5分	○目と体の連携 ・線上歩行や体幹を整える運動等を行う。
15分	○糸通し・並縫い・ボタン付け 便利針や糸通し機を使用して、針に糸を通す。 見やすいチャコペンや大きめのボタンを使って練習を行う。 

【中学生100分（2単位時間）】

時間	指導内容
15分	○学校や家庭での様子を尋ねる。 ・定期テストの振り返りを行う。 拡大印刷の問題用紙と解答用紙を見ながら、取り組みやすい文字の大きさやレイアウトを確認する。 次回のテストに向けて、拡大率やルーペを使用する場面などを確認する。
15分	○単眼鏡 1) 漢字フラッシュカード 漢字の読みを確認後、書きテストを行う。 2) 板書読み 目標読速度を意識しながら読む。 
15分	○ルーペ ・地理(地図帳)学習 索引から国や都道府県を探す。 
15分	○タブレット ・板書書写 アプリを使って板書を撮影し、自分の見やすい大きさに拡大縮小しながら書写を行う。
15分	○作図(数学) ・在籍校の単元進度に合わせて、定規やコンパス等の文房具を用いた作図の練習を行う。目盛や針が見えにくい時には適宜ルーペを使うことを確認する。
25分	○パソコン 1) 白黒反転画面やマウスポインターの拡大設定、文字の大きさ変更など自分の見やすい環境を整える。 2) ホームポジションを確認し、ミニテストを行う(ローマ字入力、英字入力)。 3) タッチタイピングで文章入力をする。 

## 6 肢体不自由の指導

### (1) 肢体不自由の通級指導教室の対象となる子どもは

市川市の小・中学校に在籍する肢体不自由のある子どもたちは、千葉県立船橋特別支援学校（小学部）および千葉県立船橋夏見特別支援学校（中学部）の通級指導教室で「からだ」の指導を受けることができます。

また、妙典小学校には、肢体不自由特別支援学級が開設（平成27年度）されています。

### (2) 肢体不自由の指導について

①通級による指導・・・肢体不自由の程度が、通常の学級や特別支援学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの。

②肢体不自由特別支援学級・・・補装具によっても歩行や筆記等日常生活における基本的動作に軽度な困難があるもの。

### (3) 指導目標

通級指導教室
個々の障がいの状態に応じた特別の指導「自立活動」を行う。

### (4) 指導・支援内容

船橋特別支援学校・船橋夏見特別支援学校による通級指導教室	
<p>○指導形態・指導場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校通級（本校に通って学ぶ）</li> <li>・巡回通級（在籍校で学ぶ）</li> </ul> <p>○指導時間・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1単位時間（小学生45分、中学生50分）個別で学習する。</li> </ul> <p>○指導内容（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチや基礎、基本的な運動をととした身体の学習。</li> <li>・よりよい身体の使い方、動かし方の学習。</li> </ul> <p>○指導内容（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解や学習上または生活上の困難を改善、克服しようとする意欲や態度を育てる。</li> <li>・将来を見据えたQOLの向上につながる健康の保持や身体の使い方や動かし方を身につける。               <ul style="list-style-type: none"> <li>☆身体のリラクゼーション、うつ伏せ、寝返りなど基礎的な運動。</li> <li>☆座位、立位、歩行、移乗動作等の基本的な生活動作。</li> <li>☆ゴロバレーボール、ボッチャ等の操作性を伴う運動。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>輪投げ、輪投げ♪ 上手に入るかな!?</p> <p>あっとつとつと… バランスをとって…</p>

### (5) 「からだ」の教育相談

幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校に在籍するお子さんや保護者、教員等関係する方が相談できます。

※小学生は、千葉県立船橋特別支援学校

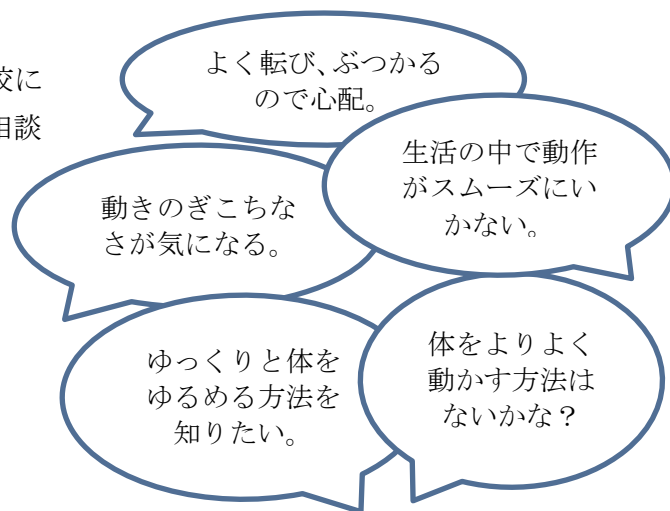
☎047-439-5811 Fax047-438-9948

✉ funabashi-sh@chiba-c.ed.jp

※中学生は、千葉県立船橋夏見特別支援学校

☎047-429-6699 Fax047-438-2099

URL <http://www.chiba-c.ed.jp/f-natsumi-sh/>



### (6) 通常の学級における配慮について

各教科	認知特性に応じた工夫が必要となる。上肢の動きに困難がある場合は、状態に合わせて学習の量と時間を調整することや支援機器の使用を検討する。
体育・保健体育・図工・美術等実技を伴う教科	見学や不参加といった消極的な対応ばかりでなく、できる種目や内容を選択したり工夫したりするなど積極的な対応が望まれる。教材・教具の工夫や配慮も必要となる。

### (7) 市川市の特別支援学級（肢体不自由）について

指導目標	指導内容
<p>各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の指導のほかに、肢体不自由の状態に応じて自立活動の指導も行う。</p> <p>① 自らの運動・動作の状態やそれを改善する方法について理解を促すこと</p> <p>② 様々な困難を改善・克服しようとするたくましい心の育成を図ること</p> <p>③ より豊かな自立した日常生活を送るために必要な基本的習慣や学習能力の向上を図ること</p>	<p>○時間割 交流学級で学習しやすいように、できるだけ交流学級に準じて作成する。</p> <p>○身体の動きについての指導 毎日身体を動かす時間を計画する。寝返り、膝立ち、立位など、児童の実態に合わせていろいろな動きを取り入れた運動遊びを行い、身体の使い方を身に付けられるようにする。</p> <p>○交流及び共同学習 各教科や給食、行事等、児童の実態を考慮しながら交流学級で学習する時間を設ける。同学年の児童や他の教職員と一緒に活動することで、人間関係や学習の幅を広げさせていく。</p> <p>○教材教具・補助具 学習や生活の中で、実態に合わせた教材教具や補助具を用意し、児童が主体的・自主的に活動できるようにする。</p>

